

台山ノ横川、又鞍馬山、及大原ノ醫王谷等ニ多シ、葉ハ五加ノ葉ノ如ク、五葉一蒂ナリ、大サ錢ノ如シ、故ニ錢黃連トモ、圓葉黃連トモ云、花戸ニテ梅花黃連ト云フ、此根ハ細キ鬚ニシテ處處ニ小根連珠ス、大サ一分許、故ニ又ツル黃連ト云、苗ハ苔ノ如ク、地ニ布テ生ズ、ソノ形他ノ黃連ニ異ナリ、山中ニテハ四月ニ花ヲ開ク、市中ニテハ正二月ニ葉ニ先ツテ一莖ヲ抽ヅ、長サ二三寸、ソノ端ニ一花ヲ開ク、五出ニシテ梅花ノ形ノ如ク、大サ三四分、内ハ白色、外ニハ紫色ノ細條アリ、葉ハ黄色ナリ、花後ニ小莢數多ク圓ニ連ル、内子ハ罌粟米ヨリ大ナリ、凡テ黃連ノ實皆同ジ、唯葉異ナルノミ、葉大者根亦大ニ、葉小者根亦小也、又三ツ葉黃連ト云アリ、形ハ錢黃連ニ同クシテ三葉ナリ、花實根俱ニ異ナラズ、一名クマデ黃連、野州カタバミ黃連、同上加州、奥州、野州、甲州ニ産ス、

〔廣益地錦抄四〕黃連 葉こまかにて花は玄ろく、初春諸花にさきだちてひらく、正月中の比、雪中にもつぼみを出し、珍敷時節なれば鉢植にしてながめあり、春末に實有、實のかたちもながめ有、〔草木育種下品〕黃連 加賀菊葉の黃連上品なり、又薩摩の大葉は菊葉に似て甚大なり、是亦上品なり、藥に入てよし、又芹葉の物に數種あり、蝦夷の芹葉は至て細く奇品なり、又五加葉あり、此類に三葉のものあり、奇品めづらしきなり、此等は根小にして藥に用るに堪ず、總て植る法は、大抵人參を植ると同じ、土地は黒ぼく野土等によし、日陰の地に宜し、若日陽なれば竹か蘆の簣を編日覆してよし、雨は簣の間よりかゝりてもよし、濕地を嫌肥に及ばず、折々米泔水を澆べし、八月分植、隨分間を近く植るがよし、

〔令義解三賦役〕凡略 其調副物、○註 正丁一人、○中 黃連二斤、

〔令集解十三賦役〕穴云、此進黃草者、染草料也、

〔甲斐國志百二十三產物及製造〕一黃連、和名加久末久佐 加賀、安藝、常陸、陸奥諸州ヨリ出ル者名アリ、本州四方ノ

山皆アリ、獨得名コト晚シ、就中白峯諸山及八岳ニ産スル者、色深黃ニシテ光潤アリ、味殊ニ溫和